

## バイオテクノロジーとバイオビジネス

教授 浅 賀 宏 昭

### 1. 研究内容

この演習室では、国内外で利用されている（されつつある）バイオテクノロジーを中心に学びます。同時に、産業化やビジネスについても調べますので、関連した生命倫理や法律等について学習することもあります。対象とする学問領域は学際的（超域的）で、ここに全て記述することは紙面の都合で難しいため、以下に Key words を多めに記しますので、参考にしてください。

Key words : バイオ医薬品（細胞医薬品など）、バイオ化粧品、遺伝子検査（PCR 検査など）、DNA 鑑定、個別化医療、再生医療、iPS 細胞、人工臓器、特定保健用食品、機能性表示食品、植物工場、培養肉（人工肉）、遺伝子組換え作物、ゲノム編集、アンチエイジング、発酵・醸造、バイオマスエネルギー、SDGs

### 2. ゼミの進め方

以下、対面授業ができると仮定して記していますが、出来ない場合はオンラインでできる限りの活動をしていきます。

#### 《2年次》【基礎力養成】

春学期は、基礎知識習得と、調査、研究、発表の技法を実践的に学びます。大まかなテーマも決めます。秋学期は、これらに引き続き、論文の書き方も学び始め、テーマを絞っていきます。

#### 《3年次》【応用・展開】

春学期から口頭発表を重視し、発表技法を磨きつつ、研究内容についても検討します。8月以降の活動は、秋学期のプレゼン大会や奨学論文への投稿を意識していきます。

#### 《4年次》【集約・発信】

春学期は、個人論文が完成していない学生はそれを継続し、書きあげたゼミ生はグループ研究またはプロジェクト研究を開始し、各々それらの完成を目指します。秋学期は、総仕上げの期間として位置づけ、余裕のあるゼミ生は学外への積極的な発信を目指します。

なお、合宿は、年に一度、3学年合同で行います。このほか、授業外の時間に学外図書館（国会図書館など）、セミナー、講演会、展示会、実習などに行くこともあります。

### 3. 教材

別途指示。ゼミ生に本や資料を貸し出したり、新聞記事スクラップやダイアリー（ゼミノート）を回覧したりしています。他に多数の動画教材（録画したTV番組等も）を使用します。

### 4. 成績評価の方法

口頭発表（35%）、論文（35%）その他のゼミ活動への取り組み（30%）。

### 5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

### 6. その他・志願者へのメッセージなど

ダブル・コア履修生、部活動との両立を目指す学生は歓迎しますが、部活動を理由にゼミ活動を休まねばならない人は続けられません。実習（実験）は、醸造実験など（白衣を購入のこと）をすることがあります。また、科学教室の助手をアルバイトとしてお願いすることもあります。合宿をする場合は、夏か春に2泊3日で研究会や工場見学などを企画します。他に、日帰り見学会を実施（最近の見学先：都内や近県の植物工場、製薬会社、メグミルク、明治、国立科学博物館、資生堂鎌倉工場、かずさDNA研究所、ビール工場、しょう油工場、理化学研究所、日本科学未来館、ヤクルト工場、ワイナリー、酒蔵会社、ほか）することがあります。レクリエーションとして、各種スポーツ（特にバレーボール、卓球、ボウリング）、バーベQ、バイオベンチャー企業のCEOやOBOGとの交流会なども実施することがあります。（ゼミ協主催スポーツ大会にもTシャツを作って参加）。